

ノーマライゼーションという言葉の知らないまちづくり

岩手県陸前高田市（2019年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標	岩手県の東南端、宮城県との県際に位置する。東日本大震災後、特に転出が多く、人口は減少の一途をたどっている。少子高齢化などの影響もあり、産業競争力が脆弱で優良な雇用機会が少ない中、経済面では「震災で壊滅的打撃を受けた地域産業の復興」、社会面では「震災で壊滅的打撃を受けたまちの整備と活性化」、環境面では「震災で壊滅的打撃を受けた陸の整備と海の保全」を課題とし、誰一人取り残さない社会の実現を目指す。	2. 関連するゴール	
3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	これまで進めてきた「ノーマライゼーションという言葉の知らないまちづくり」の施策に加え、多様なステークホルダーとの連携により、「共生のまち」「交流のまち」「持続可能なまち」の実現を目指した事業構想・計画策定、普及啓発イベントや、ユニバーサル就労支援センターによる就労支援、およびパラスポーツ（eスポーツを含む）の大会・合宿を実施するほか、ベンチャー企業等とのパートナーシップ・イベントを開催することにより、理解醸成やPR、精神的なバリアの低減や研究開発の促進を図り、誰一人取り残さない社会の実現へ繋げる。		
4. 自治体SDGs推進等に向けた取組 <ul style="list-style-type: none">◆ 普及啓発活動の推進<ul style="list-style-type: none">・市民への認知度向上のため、市広報紙にてSDGs関連記事の定期連載、陸前高田市版SDGsの作成・地元高校でSDGsに関する講義を実施◆ 連携体制の構築<ul style="list-style-type: none">・「陸前高田市SDGs推進プラットフォーム」の運営・大学とのSDGs連携協定の締結、学生の現地ワークショップ実施・民間企業と連携し、市内中学校にてワークショップ実施◆ 循環型社会・地域内経済循環モデルの検討<ul style="list-style-type: none">・グリーンスローモビリティの活用・地域の資源である木質バイオマス等の導入検討	6. 取組成果 <ul style="list-style-type: none">◆ 陸前高田市SDGs推進プラットフォーム（R5年度継続） プラットフォームによる各種イベントへの出展により、楽しみながらSDGsに触れることができる普及啓発を行うとともに、友好都市である名古屋市の職員を招いてプラットフォームを開催するなど、多様なステークホルダーとの協働を進めている。◆ グリーンスローモビリティの本格運行開始（R5年度継続） 時速20キロ未満で公道を走る電動車を活用し、土休日は観光客の市内周遊の利便性向上、平日は市民の買物・通院・通学等の足の提供及び脱炭素の実現を目的に運行している。◆ 市内中学校におけるワークショップの開催（R6年2月） 障がいがありながら画家として活躍している市内在住の方にご協力いただきワークショップを実施。障がいの有無に関わらず活躍できる社会の実現を目指している当市の目標実現に向けた取組を実施した。 		
5. 取組推進の工夫 <ul style="list-style-type: none">・SDGs推進プラットフォームや、SDGsの推進に関する連携協定を大学と締結するなど、市内外の多様なステークホルダーとの連携・協働の仕組みを構築し地域課題の解決を図る・楽しみながらSDGsを体験できるイベントの実施や、市広報において、記事に対応するSDGsゴールを示すなど、SDGsの事業理解の促進や、市民一人ひとりの理解を深める活動を行う	7. 今後の展開策 <ul style="list-style-type: none">・陸前高田市SDGs推進プラットフォームにおける、ステークホルダーの拡大とともに、より多くの方への普及啓発が可能な方法を模索し、持続可能なものとなるよう取り組みを進める・グリーンスローモビリティの運行を通して福祉、観光、脱炭素による地域の課題解決を図る。・企業と連携し、市内中学校においてワークショップを実施することで「ノーマライゼーションという言葉の知らないまちづくり」の達成に取り組む。		
8. 他地域への展開状況 （普及効果）	講演 9 件 （高校4件、大学3件、企業2件）、 取材 3 件 （地元テレビ局、SDGsポータルサイト「スペースシップアース」へ取組内容の掲載、アートワークショップへの取材）、 イベントの実施 7 回 （SDGs推進PF主催イベント2回、友好都市開催イベントへのSDGsブースの設置4回（SDGsフェスティバルin名古屋丸の内など）、東北SDGs未来都市シンポジウムの開催）など		